

古今
圖書

費句五石題

911.3

木

秋

發句五百題 目錄秋之部

八月

一

八朔

初秋

三新

涼

秋

秋暑

めくく

初冬

一結東

南力

五露

六霧

花火

雀啼き

七秋風

八初月

数柳

九

一葉

舞

十萩土女赤子三男了

藤袴

冬草

萼の花

西瓜

葛の心

紫菀

桔梗

土地樹

編り草

芭蕉

萩

知沙

〇秋

五月

放生寺

五月 台

約屯

世

六ヶ山系

十九系 瓜

菱葉

鬼灯

唐草子

瓢

柁のつゝ

鳩吹

三略

鰯

鰯

三虫

五秋の蝶

蜻蛉

蜻蛉

蝶

三心

蜻蛉

鳩

鳩吹

秋の蝶

桑山子

保水

鳩吹

西引板

九月

六十六系

外行自

學自表

福

五本

様

天

野

菊

尾

かきりや

紫苑

李錦子

葛藤系

きのこ

花野

毛

羽

尾赤紅

秋の葉

若の花

蓮葉系

多し

あま

天瓜

若

聖系

天動系

後能

官旗系

善後系

牛梨

升の布

元

秋

表空

やぐら

後の自

三

丹の春

三

石

原

三

後り

操

甲

葛藤

福

空

秋の蝶

○秋

三 秋 蔦

蔦

木の實

秋 蔦

秋の蔦

三 道の筆入

金粟菜

秋の蔦

高 蔦

蔦

十月

五 菊

三 大 紅 葉

能 田 照

三 菊 の 花

末 枝

名 之 出 枝

蔦 蔦

蔦 蔦

三 初 枝

蔦 蔦

紅 葉 蔦

蔦

三 菊 蔦

木 蔦 蔦

蔦

四 秋 蔦 子

粟 蔦

木 蔦 蔦

新 豆

蔦

一 粟 蔦

木 蔦 蔦

干 蔦

蔦 蔦

蔦

四 二 蔦

木 蔦 蔦

蔦 蔦

蔦 蔦

木 蔦 蔦

蔦 蔦

秋 の 蔦

三 秋 の 蔦

秋 の 蔦

秋 の 蔦

四 蔦 蔦

蔦 蔦

蔦 蔦

行 蔦

秋 の 蔦

十 月

三

三

目錄終

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '目録終' and various numbers and names.



發句五百題 秋之部

其角堂永機 編
雪中庵梅年 畫
鮮齋永濯 畫

八月之部

ハ初也 梅一里人の只まき見 尚九

ハ初也 梅もくもく 落もまきとく 三十代

初秋もあう 梅もくもく 落もまきとく 尚九

計まつく 梅もくもく 落もまきとく 尚九

冬も初月 梅もくもく 落もまきとく 尚九

冬も初月 梅もくもく 落もまきとく 尚九

○秋

曉也秋立雨の、あや、了ん
 初秋は二日通くる、森、見、川
 その秋也、あや、の、見、中、道、
 初秋也、あや、の、見、中、道、
 虎、子、馬、の、り、林、に、鹿、之、り、山、の、秋
 暮、秋、を、吹、也、鹿、其、林、初、鹿、不
 初秋也、結、葉、の、清、年、あ、さ、さ、り、
 初秋也、再、遊、る、中、の、
 眉、か、の、の、山、の、秋、の、ま、み、く、
 と、初、の、秋、も、を、桐、の、あ、さ、り、
 初、の、あ、さ、り、あ、さ、り、あ、さ、り、
 初秋也、あ、さ、り、あ、さ、り、あ、さ、り、

三三ッ

竹 詞
 梅 雅
 聽 雨
 可 朝
 琴 颯
 荷 草
 如 山
 竹 葉
 花 夕
 花 庭
 素 直
 螢 所

江三ッ
西京

今秋のあ、さ、り、あ、さ、り、あ、さ、り、
 初秋也、あ、さ、り、あ、さ、り、あ、さ、り、
 初秋のあ、さ、り、あ、さ、り、あ、さ、り、
 其、任、り、秋、立、門、也、源、
 元、清、の、の、山、の、秋、の、ま、み、く、
 初秋も、の、山、の、秋、の、ま、み、く、
 女、の、あ、さ、り、あ、さ、り、あ、さ、り、
 秋、立、也、あ、さ、り、あ、さ、り、
 水、底、の、あ、さ、り、あ、さ、り、
 初秋也、あ、さ、り、あ、さ、り、
 初秋也、あ、さ、り、あ、さ、り、

敏 樹
 霞 江
 壬 齋
 思 文
 有 川
 霞 香 女
 可 洗
 素 陽
 雪 麓
 其 石
 梨 雪

露のふり高きをくわく夕アハ
 閉りて見ゆるにも露の度中静
 草も未仕別か相向や露の秋
 枯れなきまにわもあや露の玉
 秋のまに内影のほほや露の秋
 白露や吹そくたるまの秋
 草花にまはれ秋を度中く水
 露の池も露見くくく露の草
 白露や相し静ふ秋の
 甲斐あつても露は草花やまの秋
 草花や秋く小惠や露の草
 露の草花やまの秋くく梅宿

茅節 可堂 機春 喜延 竹諷 二木 壽谷 左丈 一聲 翠颯 孤月 梅宿

本稿

露のふり高きをくわく夕アハ
 閉りて見ゆるにも露の度中静
 草も未仕別か相向や露の秋
 枯れなきまにわもあや露の玉
 秋のまに内影のほほや露の秋
 白露や吹そくたるまの秋
 草花にまはれ秋を度中く水
 露の池も露見くくく露の草
 白露や相し静ふ秋の
 甲斐あつても露は草花やまの秋
 草花や秋く小惠や露の草
 露の草花やまの秋くく梅宿

如牛 霞汀 桃年 芳林 山水 鳳樓 鳥牙 淡水 斧剛 方水 川漲 一犬

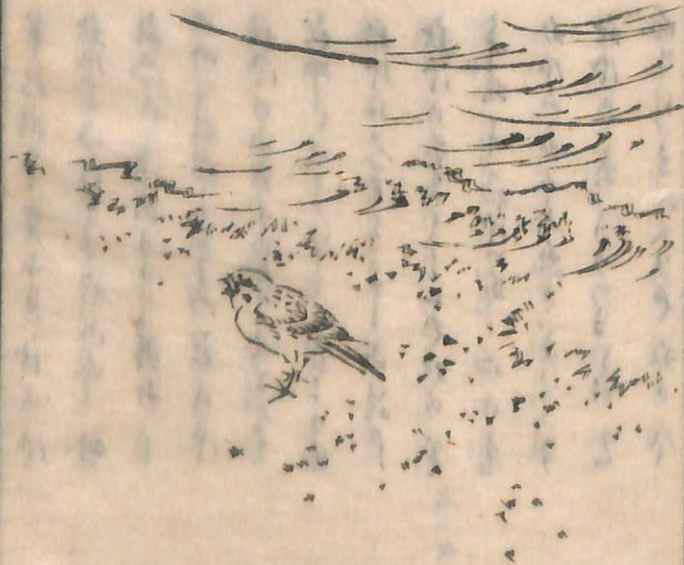
花火

花火

秋風

松雨
 石哉
 永機
 抱清
 文岱
 梨雲
 尚九
 善秀
 鷺雨
 竹葉
 袖九
 醉甫

雀
拾



秋

七

秋

第拾二首 宛中進秋の信
秋の信は 宛中進 秋の信
秋の信は 宛中進 秋の信
秋の信は 宛中進 秋の信
秋の信は 宛中進 秋の信
秋の信は 宛中進 秋の信
秋の信は 宛中進 秋の信
秋の信は 宛中進 秋の信
秋の信は 宛中進 秋の信
秋の信は 宛中進 秋の信

一鼎
予雲
雲朗
不尤
可洗
此鼎
竹堂
九岳
敏樹
左丈
壯山
思文

○秋

宛中進の秋の信
宛中進の秋の信
宛中進の秋の信
宛中進の秋の信
宛中進の秋の信
宛中進の秋の信
宛中進の秋の信
宛中進の秋の信
宛中進の秋の信
宛中進の秋の信

桃年
花月
素直
竹香
梅仙
吏中
柳僊
猶蟻
青山
連鳥
菟村

宛中進

初月

初月は後よりや一秋の序
山里也ゆきさふ花の 初月五
初月也時出花のまゝとるの書
初月也ふいふ一夢の降々四
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日

梅年 士朗 機一 鳳樓 一水 蓮州 永機 山朗 一聲 芝水 花庭 花晴

初月

一葉

初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日
初月也まゝとるかゝる月日

碧海 羽洲 梅年 一聲 大喬 晴月 竹調 貞賀 此鼎 言海 琴松 梨雪

女系家

三つ松林や 仙の門は若二之折
中道合ふ所より千粒重き若林の
我々の心若林の裏より田の原の
女系家の家や家々々々々々々々
我々の心若林の裏より田の原の
人風若林の所時也若林の如
坂より下りて来りて女系家の
事蹟も若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如

清川 青山 方水 素石 大喬 完鷗 三痴 龍吟 木寶 機春 此鼎 竹香

男系

若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如
若林の所時也若林の如

清川 喜寶 霞香女 竹笛 來杖 竹堂 護靜 才雄 素石 機一 靜和 永機

藤袴

灸花

蔓草

西瓜

葛の花

紫菀

桔梗

世に咲くは春をきくは藤袴

走りては桔梗先たり灸花

三経の十歩子春を蔓草の星

伏在庭の侍とく玉咲花蔓草

蔓草の星とく海や蔓草の星

西瓜一ツ牛に負きて度りたり

西瓜切り供ひて夜や杖元

持工更此身とくうろ雲も西瓜下

日の味を水に切りて西瓜り丸

蔓門けい山の動とよ葛の花

紫菀細の毛とく此く小松村

川に流れてるは桔梗の蔓草

碧海

矢竹

燕村

完鷗

百汲

然々

三千代

梨雪

方水

貞雄

涼坪

琢我

地榆

鶴の花

芭蕉

向ふは是れをりの桔梗の丸
暖とい思ひてをりて桔梗の杖
竹の物のわらひをりて地榆

三札

七多紅六多に傳へて我亦知
鶴の花のりては向ひてをりて

向ひてをりては向ひてをりて

紫の舟は桔梗の杖をりて

雨降の空にけりて鶴の花

向ひてをりては向ひてをりて

向ひてをりては向ひてをりて

雪裏

淡水

覺齋

正義

白雄

黙平

三猿

逸風

花晴

雪裏

秋

初
夕

月

秋の夕月 照る 雲霞
 かたけの 夕月 照る 雲霞
 さの 夕月 照る 雲霞
 夕月 照る 雲霞
 川原の 夕月 照る 雲霞
 庭の 夕月 照る 雲霞
 夕月 照る 雲霞
 初夕の 夕月 照る 雲霞
 十五夜の 夕月 照る 雲霞
 月夜に 夕月 照る 雲霞
 夕月 照る 雲霞
 夕月 照る 雲霞

梅枝 聽雨 梅年 連水 雪菴 素陽 千里 永機 詢義齋 方水 貞砂 全

夕月の 照る 雲霞
 夕月の 照る 雲霞
 夕月の 照る 雲霞
 夕月の 照る 雲霞
 夕月の 照る 雲霞
 夕月の 照る 雲霞
 夕月の 照る 雲霞
 夕月の 照る 雲霞
 夕月の 照る 雲霞
 夕月の 照る 雲霞

全 三 大 思 雲 霞 貞 山 梅 朋 共 仙 雲 臺 五 秀 碧 海

放生會



眼のあはれきつる魚のあはれ

梨雲

十六夜

御坊月
聖白衣
放生會

大橋の月見の人のあはれ
 西波の月見の人のあはれ
 龍吟の月見の人のあはれ
 梅年の月見の人のあはれ
 敏樹の月見の人のあはれ
 知雪の月見の人のあはれ
 其仙の月見の人のあはれ
 花朝女の月見の人のあはれ
 雲主の月見の人のあはれ
 收水の月見の人のあはれ
 白旗の月見の人のあはれ
 千里の月見の人のあはれ

大橋
西波
龍吟
梅年
敏樹
知雪
其仙
花朝女
雲主
收水
白旗
千里

歌

いづれもよきとて花はひやと春
やとて花は春にふとてと春
古のやとてと春とてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春

連水 妙樹 壯山 國外 荒好 雲潮 夢太 言海 文路 護靜 正義 一大

花
花
花

歌

花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春
花は春にひやとてと春

永機 梨雲 三枝 可洗 一遊 秋丸 喜延 花月 雲雀 詢苑齋 花月 梅宿

ノ
文

二十

陣

陣のいれぬかゝるる者
我々の陣はすもれなり
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者

梅宿 松月 應波 予雲 全 收之 鬼笑 米華 梅午 龍吟 竹葉

陣

陣

陣

陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者
陣のいれぬかゝるる者

魯水 機一 醉和 永機 霞香女 菟好 永機 梅空 芥剛 指直 猶蟻 良和

秋の輝

所々葉の青も残りや 秋の輝
 思ひ切りのやうに思ふより 秋は輝
 つまらぬは中程のやうに 秋の輝
 上も程に思ふより 秋の輝
 若くより 葉山多は葉の青より
 葉山多も切水より 月日の多より
 揺るを同じに思ふも 葉山多より
 小田より 五作 娘のやうに
 如く 思ふより 思ふより 思ふより
 小田より 思ふより 思ふより 思ふより
 思ふより 思ふより 思ふより 思ふより

逸風 柳子 枝玉 梅年 三奏 素石 言海 護静 霞汀 永機 秋九

三十一代



思ふ

〇秋

三十四

引板

箱

厚の板に漆工仕立る 鳴子ハ

引板ノ人の癖ハ 鳴子ハ

物言ハぬ人ノ口ハ 鳴子ハ

舌直シテ本領大ノ心ハ 鳴子ハ

小直シテ舌直シテ引板ハ

引板ハ舌直シテ山ノ家

九月三日

築切方ノ時ハ 箱ハ此来

ニ度分テ川越ニ 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

雪朗

霞香々

此鼎

快雅

螢花

永機

左岳

思雪

大喬

猶蟻

素直

本権

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

箱ハ此来 箱ハ此来

壽女

指直

古遊

九岳

大喬

手の雄

清川

梅宿

羊山

曙朝

雲啓

五川

愈喜〇

芙蓉



野 菊

庭 菊

松 菊

紫 苑

管渠仕説や本柄ゆきをさるる

津川に於ては、此の地きり

公妻の古水とて、折々、地味

引ぬや、居るや、は、後、地味

とも、和や、尾、不、清、あ、ぬ、月、の、温

霜、麦、を、ま、ま、の、折、仕、る、地、味

菊 招

ふ、か、や、は、悠、悠、橘、招、け、は、い、の、地、味

妙、う、や、下、片、又、甲、う、屋、の、地、味

本、の、ゆ、り、所、引、ぬ、ぬ、地、味、う、地

大、屋、の、地、味、苑、及、ま、ぬ、地、味、招、け

か、ま、ま、の、地、味、招、け、う、地、味、十

文 俗

花 晴

蓮 州

受 周

永 機

開 更

蓮 州

全

詢 葉 齋

乙 二

梅 午

重珠を

蔓珠の美

石の花

花

井の根成すも空を穿て一重珠を
 大徳の心はまはるもや蔓珠の心
 蔓珠の心はまはるもや蔓珠の心
 一人はくもはれおきや石の花
 志きし時中月の柱よるは花
 紅華の心はまはるもや蔓珠の心
 咲き入るは花の心はまはるも
 高りの細も又もや蔓珠の心
 咲き入るは花の心はまはるも
 咲き入るは花の心はまはるも
 咲き入るは花の心はまはるも
 咲き入るは花の心はまはるも

機 一
 五 休
 永 一
 静 和
 花 弟
 敏 樹
 梧 堂
 機 月
 雪 蓑
 芳 林
 晚 香

花

花

花

花

花の心はまはるもや蔓珠の心
 大徳の心はまはるもや蔓珠の心
 蔓珠の心はまはるもや蔓珠の心
 一人はくもはれおきや石の花
 志きし時中月の柱よるは花
 紅華の心はまはるもや蔓珠の心
 咲き入るは花の心はまはるも
 高りの細も又もや蔓珠の心
 咲き入るは花の心はまはるも
 咲き入るは花の心はまはるも
 咲き入るは花の心はまはるも
 咲き入るは花の心はまはるも

素 石
 遠 塵
 竹 莖
 古 杉
 花 夕
 登 龍
 柳 居
 雲 裏
 青 曉
 良 和
 松 翠
 巨 石

りたはし

苗 天 瓜

竹

野 木

木

木よりなる薬材種々多し
 秋の草木は山にも多し
 冬は雪の積るに草木は枯れ
 春は草木の萌ゆるに草木は青
 夏は草木の繁るに草木は茂
 秋は草木の黄るに草木は落
 冬は草木の枯るに草木は死
 草木の性は一ならず
 草木の味は一ならず
 草木の用は一ならず
 草木の功は一ならず
 草木の徳は一ならず
 草木の道は一ならず
 草木の徳は一ならず
 草木の道は一ならず

一大 半山 永機 玉馬 松月 素石 舞巾 茅節 英齋 五休 梅仙 此鼎

幼草 後 船

穴 藏 草

牛 草

升 の 市

藤の葉は薬材なり
 草の根は薬材なり
 竹の節は薬材なり
 木の皮は薬材なり
 木の葉は薬材なり
 木の實は薬材なり
 木の花は薬材なり
 木の果は薬材なり
 木の皮は薬材なり
 木の葉は薬材なり
 木の實は薬材なり
 木の花は薬材なり
 木の果は薬材なり

三 芝 共石 可金 樂成 且香 朝暉 真海 黙平 矢竹 且香 柳居 涼坪

採香
四十卷
葦抄

編 菴

空 輝

秋の採

言い未だ回末に足さく候るる

採香の樹下陶す——羽衣

秋の採香の樹下入る四十卷

乙未の採香の樹下入る

海老島——甲子年採香の樹下

子音の採香の樹下入る

退つて入る度子強う——採香

采香の採香の樹下入る

秋の採香の樹下入る

志保仕立ちうへに採香の樹下

秋の採香の樹下入る

素石

受周

指直

涼帝

霞汀

春湖

梅宿

醉甫

午心

雪潮

孝節

快雅

六川

山邨

蛙水

梅午

永機

螢花

快雅

竹葉

永機

梅仙

花晴

新修

菊

采香の採香の樹下入る

采香の採香の樹下入る

采香の採香の樹下入る

采香の採香の樹下入る

采香の採香の樹下入る

采香の採香の樹下入る

采香の採香の樹下入る

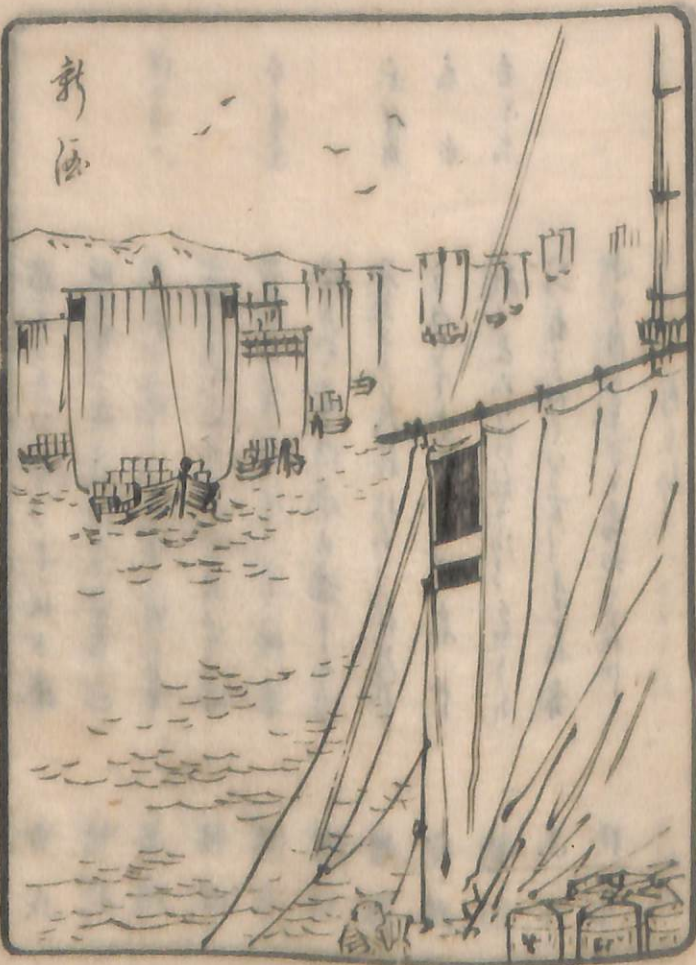
采香の採香の樹下入る

采香の採香の樹下入る

采香の採香の樹下入る

采香の採香の樹下入る

新
酒



新
酒

新
酒

暮秋の秋も... 後人...
 穂の... 新酒...
 山... 新酒...
 酒... 新酒...
 秋... 新酒...
 新酒...

新
酒

昔水 凡子 秋丸 警朝 雪雀 梅仙 植伍 晚翠 永機 此山 琴松 牧水

蓮の舟入

空雲雲

秋篠斎

扇 在

在 扇 在

舟りし月も年々や秋の候

波の響の尾子に似たりや白の

吹く風の聲しりまゝ蓮の葉

葉入り秋の意の貝の音

玉串に苦哉ほよとを襟束

そさやう空所國の魂すつり

るるるう落穂拾ひて秋の

ころころと音しりる扇の

影しるぬの秋の意の

いつと音しりる扇の

水の月うとと扇の

青我

悟秋

永機

梅宿

黙平

蓮州

碧海

完鷗

鶯雨

山邦

秋九

菊

うつついふふふと秋の意

世に秋の意の意の意の意

口の白く空雲雲の夕アう丸

菊の影の影の影の影の影

お月や秋の意の意の意

此情下りて秋の意の意の意

秋の意の意の意の意の意

きくゆきや秋の意の意の意

菊の意の意の意の意の意

菊の意の意の意の意の意

きくゆきや秋の意の意の意

秋の意の意の意の意の意

花朝女

孤月

貞砂

正童

左丈

蟻城

荷章

竹堂

逸風

晚翠

倭草

雨石

○秋

三五

今もくわくわく西遊す 表の空
西遊年をふまえて菊のりも
旅の南ハる原の松はあわくも
生雲の白い雲〜 等々の名
若らぬ也 月も雲もは雲雲
幽〜 舟の日の 結成 雲々〜
き〜の 手は 雲々〜
手修りて 雲々〜
こわ〜の 雲々〜
向き〜の 雲々〜
振〜の 雲々〜
雲々〜の 雲々〜

三 延
碧 海
雪 潮
梅 岡
米 華
醉 甫
全
琴 颯
全
全
存 亞

あまのこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
雲のこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
一葉を 秋のこゝろ 水 ぬ
あまのこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
舟のこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
水 ぬ 秋のこゝろ 水 ぬ
あまのこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
舟のこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
水 ぬ 秋のこゝろ 水 ぬ
あまのこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
舟のこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
水 ぬ 秋のこゝろ 水 ぬ
あまのこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
舟のこゝろ 秋のこゝろ 水 ぬ
水 ぬ 秋のこゝろ 水 ぬ

碧 海
水 橋
舞 巾
月 渚
雲 潮
雪 窟
返 風
敏 樹
梅 朋
可 全
機 一
正 義

未 枯

玉葉花 雲を水に 蘭の夕了り
未枯色 意方似 今も昔も
未枯の ありたりの 水に 枯る

永 機
蟻 城
言 海
舞 巾

老 之 正 枯

未枯也 歩行ハ 吸と 枯るん
老之 思 枯る 思 枯る 友
枯る 思 枯る 思 枯る 友

琴 颯
嘯 月
花 弟

能 廢

能 廢 也 江 邊 枯る 夕 日 影
石 橋 山

永 機

青 水

能 廢 也 好 走 水 枯る 思 枯る
能 廢 也 好 走 水 枯る 思 枯る
能 廢 也 好 走 水 枯る 思 枯る
能 廢 也 好 走 水 枯る 思 枯る

連 太
水 水
醉 甫



初 陸

○ 秋

三十八

蜀藥

本味香

海蜀の毒の毒行や鍋の時

水船の文の四一蜀薬上

月新の蜀薬の薬の上

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

四又

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

蓮州

連水

永機

雪潮

三猿

凡子

鼠肝

宜行

舞巾

云亭

永機

精

商藥

本味香の蜀薬の蜀薬

秋

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

本味香の蜀薬の蜀薬

碧海

蓮州

花夕

護物

不尤

永機

鼠肝

猶蟻

大喬

袖丸

晋水

葡萄

愛

射豆香

穂

茶畑



森

柿之葉

甲斐梨

松之葉

蜜柑

名目

秋の虫

前より川を流るる水は、うや

夕陽の光に照らされ、

流石の上、柿の葉は、

小法師の如く、

赤い葉は、

柿の葉の、

赤い葉の、

赤い葉の、

赤い葉の、

赤い葉の、

赤い葉の、

赤い葉の、

連鳥

可金

連水

可金

螢花

雪湖

永機

富水

五休

永機

機一

收之



別れ
望みの空

秋の空

浦人... 秋の空

秋の雨

秋の香

秋の空
 秋の雨
 秋の香
 秋の風
 秋の月
 秋の雲
 秋の露
 秋の雪
 秋の霜
 秋の霰
 秋の雹
 秋の雷
 秋の電
 秋の虹
 秋の霞
 秋の霧
 秋の霾
 秋の雨
 秋の雪
 秋の霜
 秋の霰
 秋の雹
 秋の雷
 秋の電
 秋の虹
 秋の霞
 秋の霧
 秋の霾

碧海
 柳子
 柳條
 連水
 詢蕪齋
 螢所
 柳櫻
 醉甫
 雲臺
 如牛
 靜和

冬の部

十月の部
十月の部
十月の部
十月の部
十月の部

言海
柳僊



發句五百題
秋之部
終

故

之

之
滋
庄
三
部

自

